

10月号 病虫害防除

温州ミカンが本格的な収穫時期を迎えます。以下に述べる基本事項に注意して収穫を行いまし
よう。また、落葉果樹類では収穫後も来年度の病虫害の発生を防ぐための重要な時期になります
ので、しっかり防除に取り組みましょう。

<果樹類共通 果樹カメムシ類>

本年の果樹カメムシ類の発生は平年並の状況です。園によって飛来状況は異なりますので、園
内を見回って飛来が確認された場合は薬剤防除を行ってください。カメムシ類の発生状況につい
ては農業技術防除センターのホームページを参考にしてください（農業技術防除センター
HP:<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00368010/index.html>）。

近年は樹冠内で越冬するツヤアオカメムシの発生が多くなっています。本虫は一度カンキツに
飛来すると収穫するまで長期にわたって加害する可能性があるため、飛来に注意してください。

<露地カンキツ>

○果実腐敗（緑かび病等）対策

園内で腐敗果をみつけた場合は早急に取り除き、園外で適切に処分しましょう。

薬剤散布は、収穫7～10日前に（ベンレート水和剤4,000倍またはトップジンM水和剤2,000
倍）と（ベフラン液剤25 2,000倍）の混用散布またはベフトップジンフロアブル1,500倍を散
布します。ディスクノズル（新広角二頭ノズル等）を使用し、果実1個1個を包み込むように丁
寧に散布してください。

本病原菌は傷口から感染するため、収穫の際は果実に傷をつけないよう丁寧に取扱いしてくだ
さい。本誌9月号（10～12頁）の特集を参考にしてください。

○褐色腐敗病対策

8月の多雨後に本病が発生している園地がみられます。被害が認められた園で下枝吊り等をし
ていない場合は是非行いましょう。被害果は見つけ次第早急に除去して園外で適切に処分してく
ださい。

本病の発生が問題となる園では、ランマンフロアブル2,000倍やレーバスフロアブル 2,000
倍、アリエッティ水和剤 400倍のいずれかを散布します。いずれの薬剤も収穫前日まで使用で
きるため、収穫間際に発生した場合でも使用できます。ただし、アリエッティ水和剤は高温時に
散布すると日焼け果の発生を助長する場合がありますので避けてください。

○アザミウマ類対策

本虫は着色期以降に果実と果実・葉が接している部分に寄生して、果皮表面を食害します。食
害部位は果面がリング状や円形等に白変し、その後褐変または腐敗します。園内でそのような部

位での発生・被害を確認したら、早急に薬剤散布をしてください。薬剤はスピノエースフロアブル 4,000倍（収穫7日前まで）、ハチハチフロアブル 2,000倍（収穫前日まで）等を使用します。

○ミカンハダニ、ミカンサビダニ対策

ミカンハダニは低密度時の防除が効果的なので、発生を確認したらすぐに防除を行いましょう。ただし、収穫の近い園地では、収穫前日数に応じて使用する殺ダニ剤を選択してください。

防除の際は、かけムラのないよう丁寧に散布してください。また、抵抗性の発達を避けるため、昨年及び本年使用した殺ダニ剤は使用しません。

園内や近隣の園でミカンサビダニの被害が発生した場合は、早急に防除を行ってください。使用する薬剤は表を参考に選択してください。

表 ミカンハダニ、ミカンサビダニに対する薬剤の例

時期	対象害虫	薬剤	倍率	収穫前使用日数
10月上旬まで	ミカンハダニ	コロマイト水和剤	2,000倍	収穫7日前まで
		カネマイトフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで
		スターマイトフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで
		ダニコングフロアブル	2,000倍	収穫前日まで
	ミカンサビダニ	サンマイト水和剤	3,000倍	収穫3日前まで
		マイトコーネフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで
		ダニカット乳剤20	1,000倍	温州ミカンは収穫14日前、その他のカンキツは収穫60日前まで
10月中旬以降	ミカンハダニ +ミカンサビダニ	ダニゲッターフロアブル	1,000倍	収穫前日前まで
		ダブルフェースフロアブル	2,000倍	収穫前日前まで
		ダニエモンフロアブル	4,000倍	収穫7日前まで
10月中旬	ミカンハダニ	オマイト水和剤	750倍	収穫7日前まで
以降	ミカンサビダニ	10月上旬までと同じ		

○ウスカワマイマイ、チャコウラナメクジ

発生初期の場合は、スラゴやICボルドー66D 100倍（薬害対策としてクレフノン200倍を加用）を使用します。既に樹上に発生している場合や果実の汚れが気になる場合は、マイキラーL 200倍（収穫30日前まで）を使用します。ただし、ICボルドー66Dのように長期間の効果は期待できません。

<不知火>

○汚れ果症

10月中旬までは防除が必要です。収穫まで90日以上期間がある場合は、ジマンダイセン（ペンコゼブ）水和剤 600倍を使用します。ただし、黒点病防除等ですでに4回散布している場合は使用できません。

このような場合や収穫までの期間が90日より短い場合は、ダイマジン 1,500倍（収穫14日前まで）を使用します。ただし、本剤は腐敗果対策で使用するベフラン液剤25と同じ有効成分（総使用回数2回以内）を含むため、使用は年1回以内にしてください。

<ナシ>

○黒星病対策

10月～11月は翌年の発生源となる鱗片への感染を防ぐ重要な時期です。キノンドーフロアブル 1,000倍、オーソサイド水和剤80 1,000倍、チオノックフロアブル 500倍、デランフロアブル 1,000倍のいずれかを10～15日間隔で2～3回散布することを基本散布とし、基本散布が終了した後も、ナシの葉が2割以上残っている期間は追加防除を行います。ムラのないよう丁寧に散布してください。

<ブドウ>

○べと病対策

収穫後も本病の防除を行い、早期落葉を防ぎましょう。ICボルドー66D 50倍またはICボルドー48Q 50倍のいずれかを散布します。いずれも防除効果を向上させるために展着剤のアピオンE 1,000倍を加用してください。

○ブドウトラカミキリ

10月上旬は本虫の卵がふ化し、幼虫が枝内へ食入する時期です。モスピラン水溶剤 2,000倍を散布しましょう。この時期に散布できなかった場合や山間部等の発生が多い園では、落葉後の11月上旬までにトラサイドA乳剤200倍にプラテン80 800倍を加えて散布します。かけムラがないよう丁寧に散布してください。

<モモ>

○せん孔細菌病（モモ）・黒斑病（スモモ）対策

秋季の感染を防ぐために、9月上旬から10月上旬にかけて防除を徹底します。モモはICボルドー66D 50倍もしくはICボルドー412 30倍、スモモはICボルドー412 30倍を散布します。特に台風の襲来等の強風雨によって感染が助長されるため、襲来前の防除を徹底してください。